

ビジュアル文化シリーズ

清水 勲 著

年表 日本漫画史

■ 四六判・上製・276頁

品 切

日本の漫画文化はなぜここまで隆盛したのか。日本の漫画文化の端緒を古く平安・鎌倉の絵巻・戯画にみる立場より、12世紀の鳥獣人物戯画から現代のストーリーマンガにいたるまで、800年をこえる日本の“漫画”史を、年表と図版、解説で綴ったハンディな概説書。付「漫画家没年・関係書籍・漫画賞一覧」「索引」。

ISBN978-4-653-04010-1 [07/5]

牧野圭一・上島 豊 共著

視覚とマンガ表現

—科学とマンガのナベ<鍋?>ゲーション—

■ 四六判・上製・232頁

〈書籍版〉本体2,000円＋税

〈電子出版〉今夏配信予定

極端なデフォルメ表現で、感覚や欲望をダイレクトに表現するマンガ家の目には、モノがどのように見えているのだろうか？ 色の見え方やヴァーチャルリアリティーの仕組み、錯覚、パラパラマンガが動いて見える現象など、人間の視覚にまつわる様々な不思議をマンガ家と物理学者がわかりやすく紐解く。「リアルな表現」の謎に迫る意欲作。

ISBN978-4-653-04012-5 [07/5]

吉村和真・田中 聡・表 智之 共著

差別と向き合うマンガたち

■ 四六判・上製・250頁

本体2,300円＋税

「マンガ」という日常的なメディアは、現代人の思想や感情にどれだけ深く関わっているのだろうか？ 「マンガを読むこと」で無意識のうちに刷り込まれてしまう固定観念を、〈登場キャラクターの見た目と性格〉〈時代とともに変容する歴史マンガのメッセージ性〉〈身近なメディアだから起こる問題〉という3つの観点から読み解いてゆく。

ISBN978-4-653-04013-2 [07/7] [08/5]

茨木正治 著

メディアのなかのマンガ

—新聞・コママンガの世界—

■ 四六判・上製・252頁

本体2,300円＋税

情報が氾濫する現代において、新聞・コママンガが持つ意義とは？ 社会の世相を反映してきた政治漫画、特に郵政民営化選挙を題材にした作品を多数取り上げ、コマに凝縮された世界を読み解く。また、中世ヨーロッパにおける風刺画から最近の日本の政治漫画にいたるまでの新聞漫画の歴史とカートゥーン研究史についても概観する。

ISBN978-4-653-04011-8 [07/7]

津堅信之 著

日本初の
アニメーション作家 北山清太郎

■ 四六判・上製・288頁

本体2,400円＋税

大正6年、日本で最初にアニメーションを作った人物の一人・北山清太郎。教本も何もない中で、彼はどのようにしてアニメを完成させたか、また同時代の作家と比べ、圧倒的多数の作品を残せたのはなぜか。本人の回想録や遺族・関係者の証言に基づいて考証する。北山の事跡を通じてアニメ大国日本の黎明期を照射した名著。

ISBN978-4-653-04020-0 [07/7]

清水 勲 編・著/鈴木理夫 協力

戦後漫画の
トップランナー 横井福次郎

—手塚治虫もひれ伏した天才漫画家の軌跡—

■ 四六判・上製・244頁・カラー口絵4頁

本体2,700円＋税

戦後まもない頃「ふしぎな国のブッチャー」や「冒険ターザン」などの作品で日本人の心をとらえた横井福次郎。本格SF漫画を手がけ、手塚治虫に影響を与えるなど、漫画史上重要な足跡を残しながらも、天逝したため現代では顧みられることが少ない。本書では、多数の図版を交え、横井の魅力溢れる創造世界を探究する。

ISBN978-4-653-04015-6 [08/1]

横田正夫著

アニメーションと ライフサイクルの心理学

■ 四六判・上製・278頁

本体2,600円＋税

チェコの人形アニメ作家「イジー・トルンカ」、彼に師事した「川本喜八郎」、そしてテレビアニメ版「ゲゲゲの鬼太郎」を分析対象として取り上げ、『ライフサイクル』の概念を手がかりに、作り手の心の問題とアニメーション作品の相関を読み解いていく。心理学者の著者による、アニメーション研究の新たな試み。

ISBN978-4-653-04022-4 [08/3]

伊藤公雄編

マンガのなかの〈他者〉

■ 四六判・上製・232頁

本体2,400円＋税

マンガは社会のさまざまな側面を映し出している。同時に、人々の意識やものの見方に深い影響を与えている。マンガに表れる〈他者〉イメージを、日・欧の研究者が比較文化・言語・ジェンダー論の視点から考察。マンガから「日本文化の特徴」やその「歴史的な変容」をとらえることで、ビジュアル文化研究に新たな視座を投げかける。

ISBN978-4-653-04014-9 [08/10]

加藤幹郎編

アニメーションの映画学

■ 四六判・上製・320頁

本体2,700円＋税

ミッキー・マウスは一秒間に何回表情を変えるか？ アニメーションにおける流動的な動きのもつ意味は？ ディズニー・アニメから鉄腕アトム、エヴァンゲリオンに至るまで、古今のアニメーション作品に触れながら、その特有の表現方法や物語構造の分析を通してアニメーションの面白さの秘密に迫る意欲作。

ISBN978-4-653-04024-8 [09/2]

表 智之・金澤 韻・村田麻里子共著

マンガとミュージアムが出会うとき

■ 四六判・上製・250頁

本体2,600円＋税

マンガミュージアムが設立され、博物館でマンガが展示されるなど、マンガが公共の場で紹介される機会が増えている。一方で、展示の現場では、マンガという大衆文化をミュージアムという公的な空間に置きなおすことによって様々な戸惑いが生じている。マンガとミュージアム、両者の特質について、三章にわたって考察する。

ISBN978-4-653-04017-0 [09/7]

堀あきこ著

欲望のコード

—マンガにみるセクシュアリティの男女差—

■ 四六判・上製・256頁

本体2,400円＋税

女性向けポルノグラフィと男性向けポルノグラフィ、両者の性表現はなぜ異なるのか？ 本書は、ポルノコミックに描かれる「欲望」を比較分析し、そこに表現されている男女のセクシュアリティの差異を読み解く。メディアの受け手である消費者がどのような作品を望みそれが社会とどのように結びついているのかを浮き彫りにする。

ISBN978-4-653-04018-7 [09/6]

横田正夫著

日韓アニメーションの心理分析

—出会い・交わり・閉じこもり—

■ 四六判・上製・280頁

本体2,700円＋税

アニメーションに描かれる人間関係の3つの要素「出会い」「交わり」「閉じこもり」に着目し、日韓の作品を比較分析。韓国の作品と比べ、一見閉鎖的傾向を示す日本のアニメーションが、世界で受けているのはなぜか？ 心理学の知見から「閉じこもり」の意味を問うとともに、日本人の心理的特性を浮き彫りにする。

ISBN978-4-653-04023-1 [09/7]

川村邦光編

セクシュアリティの表象と身体

■ 四六判・上製・264頁

本体2,700円＋税

近現代の大衆文化の中にみられる日本人のセクシュアリティとは？ セクシュアルな表現を含んだ服飾・写真・人形・雑誌・演劇等の分析を通じて、日本人が性や身体に寄せた関心と、それが時代の推移のなかで、どのように変容してきたかを考察。〈性〉をキーワードに時代・メディアを横断する、画期的なポピュラーカルチャー研究。

ISBN978-4-653-04019-4 [09/12]

塚田幸光著

シネマとジェンダー

—アメリカ映画の性と戦争—

■ 四六判・上製・274頁

本体2,800円＋税

男らしくないカウボーイや過剰に体を鍛える男性、或いは戦闘的な女性や、逆に非常に「女らしい」女性—アメリカ映画の「性」の描きかたにはどのような意味があるのだろうか。「ジェンダー」「セクシュアリティ」という視座からアメリカ文化を考察するとともに、アメリカ文化の深層と映像表象との関係を追究する意欲作。

ISBN978-4-653-04060-6 [10/3]



ビジュアル文化シリーズ関連書籍

吉村和真編著/清水 勲・内記稔夫・秋田孝宏著

マンガの教科書

—マンガの歴史がわかる60話—

■ 四六判・並製・224頁

本体2,000円＋税

京都新聞連載コラム『マンガ50話』(06年3月～07年5月)に、新稿を加えて単行本化。今や現代人の生活に欠かせない文化であるマンガの歩みを、雑誌、新聞、貸本、TV等の、時代を映すメディアとのかかわりからわかりやすく紹介する。マンガ資料の保存・研究の重要性や、地方のマンガ文化にも触れられている、現代マンガのガイドブック。

ISBN978-4-653-04016-3 [08/7]

茨木正治編

マンガジャンル・スタディーズ

■ 四六判・並製・304頁

本体1,900円＋税

日本マンガ学会カトウーン部会の研究成果を書籍化。歴史学・社会学・マスコミュニケーション論・テキスト分析等、人文・社会科学のあらゆる叡知を駆使し、カトウーン(1コマ漫画)等のコマ漫画とコミックの特質を具体的な作品を挙げながら横断的に考察。表面的な「マンガ史」では見えてこない、マンガというジャンルの奥深さに迫る。

ISBN978-4-653-04196-2 [13年春刊行予定]